はしがき

2022 年 11 月 12 日〜13 日開催の第 165 回大会予稿集をお届けします。この大会も、コロナ禍のため、引き続きオンライン開催となります。依然として困難な状況での大会開催ですが、大会運営委員長の江畑冬生氏をはじめとする大会運営委員のみなさんの献身的な努力により、無事開催されることになりました。これらの方々に心よりお礼を申し上げます。

今回の第 165 回大会には 68 件の応募があり、うち 50 件が採択されました（内訳：口頭発表 43 件、ポスター5 件、ワークショップ 2 件）。今までの大会同様、様々な言語（あるいは言語一般）を対象とする、極めて多様なアプローチによる研究発表が予定されています。

大会 2 日目（11 月 13 日）に行なわれるのは、沖縄国際大学の西岡敏氏の企画（および下地賀代子氏の司会）による公開シンポジウム「琉球における言語継承活動の現状と課題」です。現状のままでは消滅の危険性があるとされる琉球語を、強い危機意識のもとに研究している研究者が、近年、琉球語の再活性化の取り組みを強化しています。本シンポジウムでは、このような活動に取り組んでいる 5 名の研究者が登壇し、それぞれの活動の成果と課題を示し合うことによってお互いに情報交換を行ない、様々な課題の解決に向けた方向性を議論していきます。危機言語に対する学問的取り組みは、言語学的に意義があることはもちろん、社会的にも大きな重要性をもつ活動です。そのような活動の成果は地域に生きる人々にどのように還元されるべきか、そして学問的結果は言語の継承にどうやって役立てていくべきなのか、こういった喫緊の課題が本シンポジウムにおいて取り上げられることになります。琉球語以外の危機言語に対する継承活動にも関わる有意義なディスカッションがなされることが期待されます。

コロナ禍のもとで何度もオンライン大会を経験し、研究発表やディスカッションに限っていえばそれほど不自由なく行なえるようになってきたのではないでしょうか。懇親会に代表される学会の社交的側面に関しても、何とか会員の相互交流を図ろうと、今回の大会においても休憩室や懇親会について大会運営委員会が最大限の工夫を凝らしてくれていると聞いていますので、ぜひご参加ください。

最後になりましたが、今大会も今までと同様、事前の参加登録と参加費の支払いが必要となりますので、どうかご登録をよろしくお願いいたします。

2022 年 11 月

日本言語学会 会長　福井 直樹